

吉沢章子通信

2010/冬季号
Vol.04ホームページより
情報発信中<http://yoshizawa-akiko.jp>

輝く未来を、子どもたちに

■昭和39年3月14日多摩区生まれ、魚座、O型 ■神奈川県立百合丘高等学校・東京Y M C Aデザイン研究所・建築科卒業 ■職歴：菊竹清訓建築設計事務所勤務を経て吉沢章子建築設計事務所主宰 ■平成15年4月川崎市自民党初の女性市議会議員として初当選・現在2期目 ■高校3年生・高校1年生の母 ■資格：一級建築士 宅建建物取引主任者 ■趣味：サッカー（ママサッカーチーム・ダイナマイトママ・キャプテン） 絵を画く 詩を描く 歌を詠む

2010年・新年の抱負

皆さまには輝かな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2009年は「激変の年」となりました。私自身は二つの選挙と議会を繰り返す中、環境委員長として「水道料金の値下げ」「地球温暖化対策を推進する条例」を長時間審議・可決するなど多忙を極めた一年でありました。2010年は「地域に立ち、地域に根ざし、地域の声を聞く」その声の解決に向けて「創造力を駆使して政策立案し、諦めることなく取り組み続ける」さらに「結果の良否に甘んじることなく常に進化する」という自らのポリシーを極めてゆきたいと思います。

今、政治に求められるのは「明確なビジョンを示し、実現する具体策を提示し、実行するリーダーシップを発揮すること」であると思います。地方議員の私ができる、閉塞感を打破する方法は、地域力を上げることであると考えます。今こそ地方から発信するボトムアップの時代です。多摩区を愛し川崎を愛し、地域にさらに深く根ざして、皆さまと共に素晴らしい「わが街」を創造してゆきたいと存じます。本年もご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

政策は現場から！百聞は一見に如かず

吉沢章子の活動報告その1

現場に赴き、最前線の人と語り、問題意識を共有した上で、政策として提言する。常に心がけています。12月定例会では、学校・病院の現場に伺いました。また、9月決算審査特別委員会では、稲田登戸病院跡地の工事について周辺住民の方々の声を伺って質問に臨みました。

12月定例会・質問項目

1. 学校トイレの快適化について
2. 病院事業について
3. 生田緑地と多摩区のまちづくりについて

学校トイレの快適化について

20年12月議会で「小学校のみならず中学校も実施すること」「改修を希望する学校は手上げ方式で行うこと」「子ども参加のワークショップを行うこと」を提案した。21年度の実施状況を検証し、有馬小学校の改修事例および東橘中学校のワークショップに参加して、質問に臨んだ。

教育長の答弁

21年度実績について。小学校13校、中学校3校、計61校が年度内工事完了予定。子ども参加のワークショップについて。小学校5校、中学校4校、計9校が実施。ワークショップの教育的意義は深い。今後も拡大してゆく。

市長の答弁

市長選挙中「全校トイレの快適化」を重点施策として掲げた。早期実現に向け積極的に取り組む。

病院事業について

21年3月議会で「為すべき赤字と許されざる赤字」について取り上げた。

病院事業は一般会計から毎年36億円程度繰り入れている。救命救急や、お産を守る周産期医療、インフルエンザなどの感染症対策などは、いわゆる「不採算医療」で赤字であるが、市民にとって欠くべからざる「為すべき赤字」である。しかし、「許されざる赤字」として、3月議会で川崎病院のレセプト（診療報酬請求）の不適切な処理を指摘。今回は、その金額が多額な「埋蔵金」であることを追求。発見されなければ眠ったままのお金であり、赤字の原因。現場で働く医療従事者をはじめ、市民への背任であると指摘。公立病院の存続が厳しい昨今、市民の命を守る病院の経営改善を強く要望した。また、患者モニター制度を取り入れること、患者7人に看護士1人を配置する7：1（現在は10：1）制度を早期導入するよう提案し、早期実現を目指す答弁を得た。

病院事業管理者の答弁

平成20年4月以降現金化されていない診療報酬請求額は、平成21年11月現在で、約8億円。全力を挙げて年度内の決着を目指す。専門知識と経験を有する人材を確保し改善を図っていく。患者モニター制度は全国でも事例は少ないが、導入してゆく。

※「3. 生田緑地と多摩区のまちづくりについて」は時間切れで次回に持ち越しとなりました。



質問に立つ吉沢章子議員

9月決算審査特別委員会・質問項目



質問に立つ吉沢章子議員

1. 行政委員について
2. 本市の監査について
3. 福田登戸病院跡地の廃棄物等について

行政委員・監査について

行政委員等の月額報酬が訴えられている。実態に見合った報酬であること、説明責任が果たされていることが重要。第三者による検討委員会の設置が必要。選任の在りかたも含めて市の姿勢を打ち出すべきと指摘。

監査について。決算重視の予算編成を提案してきた。数字を読み取り事業評価に加える、いわゆる積極的監査の早期導入を要望。出資法人の監査について、市OBの「わたり」などを牽制する意味でも有効な業務監査・組織監査をあわせてすべきと指摘。監査と事業評価のコラボレーションを提案。

福田登戸病院跡地の廃棄物について

巨大なテントに重機やトラックが行き来する。開発行為ではない。「土壌改良」だと聞いていたが、その原因は大量の医療系廃棄物の投棄だった。それは生田緑地の敷地にも及んでいた。住民への情報開示と市の指導に問題があったことを指摘、さらに、市内部での情報共有も発生してから2年後とあまりにも遅く、市の体質改善を求めた。併せて「本当に安全なのか」を確認した。

環境局長の答弁

平成18年の病院閉鎖後、土壌に水銀を確認。処理を指導。解体工事中、地中に医療系廃棄物を確認、敷地全体で最終的には、医療系廃棄物250トン・混合廃棄物520トンが発見され、コンクリート殻220トンと合わせて適正に処理された。全容が確認された平成20年に関係局で情報共有したが、今後、情報共有の徹底に取り組む。生田緑地および当該地は、現状復帰を原因者の国家公務員共済組合の責任において行う。

吉沢章子の活動報告その2

- ① 「毎日フォーラム」日本の選択・1月号に寄稿
毎日新聞社の政策情報誌「毎日フォーラム」の「議員提案」頁に吉沢章子が寄稿し、掲載されています。ご一読頂けましたら幸いです。
- ② 「地球温暖化対策を推進する条例」を環境委員長として可決。3年越しの提案が実現しました。今後、基本計画・実行計画の策定に向けて、実行力のあるものとなりますよう、検証・提案して参ります。
- ③ 昨年7月19日に二度目の試みとして、向ヶ丘遊園駅南口・民家園通り商店街の夏祭りにおいて、リユース食器によるエコ啓発活動に取り組みました。各店舗と連携してビールや焼酎などの紙コップの代わりに再使用可能なコップを使用するデポジット制度です。来場者の反応は上々で、多くの方から賞賛の声を頂くなど、市民のエコに対する見識の高さを再確認させて頂きました。

郷土の昔話 地元のルーツ、知っていますか？

明治19年（1886）、登戸村に丸山教本庁がおかれまして。

丸山教は、明治3年（1870）登戸村の農民であった伊藤六郎兵衛を教祖として、富士講の一派である丸山講を背景として興った、世直しの性格のつよい新興宗教です。幕末から明治維新期には、その政治や社会の変革に伴って全国的に新たな民衆宗教が展開しました。例えば中山みきの「天理教」、黒住宗忠の「黒住教」、あるいは金光大神の「金光教」などです。丸山教もこれらと同様、やはり社会不安の中における民衆救済の教義にたったものでした。

明治13年（1880）には、二子付近の多摩川河原で信者8000人の大祈禱（きとう）会が催され、同19年には丸山教信者は実に138万人に及んだと言われています。このように飛躍的な発展を遂げた丸山教でしたが、国家的な弾圧などのために明治20年代中頃には、その勢いも急速的に衰え始めました。そこで一方では、当時の報徳社運動と連携して、勤勉・儉約を強調する信仰へと変化をしていったわけです。現在、丸山教は一時の信者数ほどではありませんが、平和主義を教義にかかげて原水爆禁止運動を信仰の実践として、その活動を続けています。さて、丸山教三代管長伊藤六郎兵衛（本名は平質）は、布教活動のかたわら、俳句や郷土研究にも意欲的に取り組み大きな足跡を残しています。葦天と号して、俳句に親しみ「とくさ」に加入、同門には佐藤惣之助らがおりました。特に惣之助との親交は深かったようで、昭和17年急逝した惣之助のために、惣之助の句を刻んだ碑を本院境内の庭先に建立しました。そして、この碑を「師弟の句碑」と呼んでます。

この他にも、親交のあった北原白秋が作詩した「多摩川音頭」の詩碑なども、本院境内にあります。



丸山教本庁 多摩区登戸